

事業番号	事務事業名	高齢者等緊急見守りシステム整備事業費	所管課名	保健福祉課	令和 3 年度課長名	安道 智秋
01541	政策名	1 ころあたたかい福祉の里づくり	係名	福祉係	担当者・シート作成者	山崎 友紀
	施策名	14 高齢者福祉の推進	根拠法令等	鏡野町高齢者等緊急見守りシステム整備事業実施要綱		

1. 事務事業の概要

①事業期間	②今年度の事業内容(具体的な内容、事務概要等を簡潔に記載する)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
<input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返し <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度~ 年度) <input type="checkbox"/> 単年度のみ	65歳以上のひとり暮らしの高齢者等の利用希望者に、緊急通報装置・人感センサー・ペンダント型送信機を貸し出す。体調が悪くなったら緊急ボタンを押せば、緊急相談センターへ緊急通報が入る。緊急センターは、状況確認をおこない、状況に応じ協力員へ現地確認を依頼したり、消防署へ出動要請をおこなう。人感センサーを利用者宅に3か所取り付け、人が発する熱の動きを感知し、動きが一定期間感知できない場合は緊急相談センターへ自動通報され、状況に応じて対応をおこなう。	全町に光ファイバーの設置が完了したので、光ファイバーを利用した高齢者見守りシステムを全町で利用できるように整備をおこなう。

2. 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

①対象(誰、何を対象しているのか)	④対象指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 65歳以上の高齢者・高齢者世帯、ひとり暮らしの重度身体障害者	ア 緊急見守りシステム利用者数	人	見込 実績	55 48	65 67	70 62	65	70
イ	イ		見込 実績					
ウ	ウ		見込 実績					

②意図(対象をどのような状態にしたいのか)	⑤成果指標(意図の達成度)	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 緊急通報を利用している人を見守りシステムに移行していく	ア 緊急見守りシステム利用者数	人	目標 実績 達成率	55 48 87.3%	65 67 103.1%	70 62 88.6%	65	70 88.6%
イ	イ		目標 実績 達成率					
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

③主な活動内容	⑥活動指標	単位	区分	1 年度	2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
ア 利用希望者にシステム説明	ア システム説明回数	回	目標 実績 達成率	20 17 85.0%	20 25 125.0%	20 12 60.0%	20	20 60.0%
イ	イ		目標 実績 達成率					
ウ	ウ		目標 実績 達成率					

3. 事務事業の予算・コスト概要

予算科目	会計		01 款		03 項		01 目		04 大事業		中事業		予算上の事業名					事業番号
	一般会計		民生費		社会福祉費		老人福祉費		06		22		高齢者等緊急見守りシステム整備事業費					01541
予算(千円)	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比	決算 (千円)	1 年度 実績	2 年度 実績	3 年度 実績	4 年度 見込	5 年度 見込	前年比					
国庫支出金							国庫支出金											
県支出金							県支出金											
町債							町債											
その他特財	62	62	144	204	204	82	その他特財	48	116	3,057	204	204	2,941					
一般財源	5,836	4,069	5,411	4,969	4,969	1,342	一般財源	3,001	3,884	1,633	4,969	4,969	-2,251					
合計	5,898	4,131	5,555	5,173	5,173	1,424	合計(A)	3,049	4,000	4,690	5,173	5,173	690					
財源名称	見守りシステム利用者負担金						従事正職員人数		2	2	2	2	2					
							延べ業務事務時間		80	100	100	100	100					
							人件費計(千円)(B)		280	334	335	342	342	1				
	最終予算額		5,555 千円		予算執行率		84.4%		トータルコスト(A+B)		3,329	4,334	5,025	5,515	5,515	691		
主な 支出事業内容 (予算)	役務費				2 千円		主な 支出事業内容 (決算)	役務費				0 千円						
	委託料				4,721 千円			委託料				3,957 千円						
	使用料				832 千円			使用料				733 千円						

事業番号	01541	事務事業名	高齢者等緊急見守りシステム整備事業費	所管課名	保健福祉課
------	-------	-------	--------------------	------	-------

#### 4. 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?
高齢化に伴い、対象となる独居高齢者や高齢世帯は増加傾向である。
② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯
NTT回線利用の緊急通報装置の普及をしていたが、光ファイバー設置でより精度の高い緊急見守りシステムへの移行を進めてきた。
③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか?
導入に地域差がやや生じていたが、地域活動支援センターの働きもあり、町内全域に広まりつつある。本人の安心だけでなく、遠く離れた家族がインターネットで動きを見守れる点も好評である。

#### 5. 事業評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性(この事務事業の目的は町の政策体系に結びついているか? 意図することが結果に結びついているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	<b>理由説明</b> システムの改善により、高齢者福祉の推進に結びついている。
	② 町が関与する妥当性(この事業は町が行わなければならないものか? 税金を投入して行うべき事業か? 住民や地域民間等に任せることはできないか?)	
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	<b>理由説明</b> システム運営は町が行っているが、協力員に近隣住民が1名以上なることをお願いしており、妥当。	
③ 対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地はないか?)		
<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	<b>理由説明</b> 地域の見守り体制、目が行き届かない時間のセンサーでの見守り両方ができ妥当。	
有効性 評価	④ 成果の向上余地(成果向上の余地はないか? 成果を向上させる有効な手段はないか? 何が原因で成果が向上しないのか?)	
	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 目標水準に達している	<b>理由説明</b> 高齢独居、高齢者世帯はまだまだあり、地域包括支援センター・ケアマネジャー等からの周知により成果向上が期待できる。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響(事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無は? 目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか?)	
<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	<b>理由説明</b> 地域の見守りには限界があり、現在の併用という形が最も有効。廃止することはできない。	
⑥ 方法・手段の改善余地(やり方等を改善して成果をより向上させることはできないか?)		
<input type="checkbox"/> 改善余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善余地がない	<b>理由説明</b> 有線テレビ回線を活用したシステムはこの業者しかなく、改善の余地はない。	
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか?)	
	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	<b>理由説明</b> 類似事業はなく、削減できない
⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか?)		
<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	<b>理由説明</b> 必要最小限の人数で対応しているため、削減できない	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか? 受益者負担は公平・公正となっているか?)	
	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	<b>理由説明</b> 課税状況により負担金もお願いしており、公平性は保たれている。

#### 6. 事業評価の総括と今後の方向性

① 上記の評価結果		② 全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																							
A 目的妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり	令和3年度は利用者が入所や死亡し、撤去の要請が多く、一方で新規設置は前年より少なかった。ケアマネジャー等より新規の相談は定期的に入っており、高齢者世帯の見守り体制の構築の一役を担っており、今後益々高齢化が進むため、事業をすすめていく必要がある。																							
B 有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
C 効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
D 公平性	<input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直しの余地あり																								
③ 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可		④ 担当課としての事業の方針																							
<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業完了	今後の改革改善案 独居高齢者や高齢者世帯、見守りを行う地域住民に広くシステムを知ってもらい、地域見守り体制の強化をし、利用者が安心して地域で生活できる体制を整備していく。		<table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> (廃止・休止・事業完了の場合は記入不要)			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			○	維持					低下			
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上			○																					
	維持																								
	低下																								
⑤ 改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
委託料やシステム利用料が1名あたりの単価で計算されるため、利用者数が増加すればコストが増加することは避けられない。																									